

Publication number: 50-100810

Date of Publication: (unknown)

Application number: 49-008928

Date of Filing: 01.18.1974

Applicant: Hiroshi Maeda (individual)

Title of the Device: Building Plate Member

Abstract:

1) Purpose: To provide a building plate member which remarkably reduces labor hour for attaching instruments, allows exact attachment of the instruments at predefined positions, and facilitates location of attachment positions.

2) Constitution:

A building plate member has its surface on which marks for attaching instruments are provided beforehand at regular intervals.

公開実用 昭和50-100810

請

## 願 登 録 新 案 用 実

昭和 49 年 1 月 18 日

特 許 庁 長 官 齋 藤 英 雄 殿

1. 考 案 の 名 称 建築用板状部材

2. 考 案 者

住 所 出願人と同じ  
氏 名

3. 実用新案登録出願人

住 所 鳴門市撫養町大桑島字岩浜 26 番地の 2  
氏 名 前 田 裕  
(国籍)

4. 代 理 人 〒 7 7 0

住 所 徳島市吉野本町 1 丁目 14 番地 中西ビル  
電 話 徳 島 (0885) 54-4670  
氏 名 (7435) 弁 理 上 豊 栖 康

5. 添付書類の目録

- |     |         |     |
|-----|---------|-----|
| (1) | 明 細 書   | 1 通 |
| (2) | 図 面     | 1 通 |
| (3) | 願書副本    | 1 通 |
| (4) | 委 任 状   | 1 通 |
| (5) | 出願審査請求書 | 1 通 |

49 0002

方 式 査 査

## 明 細 書

### ○ 1 考案の名称

建築用板状部材

### 2 実用新案登録請求の範囲

表面にあらかじめ器具取付用の一定間隔の目印が付されたことを特徴とする建築用板状部材。

### 3 考案の詳細な説明

この考案は、板状部材に取付ける照明器具や電気配線のスイッチやコンセント、あるいはガス配管の接続口などの器具の取付位置が一定間隔の目印によって表示された建築用板状部材に関する。

建物の壁や天井に張り付けられるボードや合板等の建築用板状部材には、種々の器具が取付けられるが、これらの器具を不規則に取付けたのでは使用に不便であるばかりか、インテリアデザイン上、好ましくないものである。この為、これらの器具は全て決められた位置に正確に取付ける必要があるが、天井や壁等のように広い平面の決めら

- れた位置に正確に器具を取付ける為には、相当の熟練と多くの手間とを要し、作業能率が悪い欠点があつた。何故なら、器具を取付ける前に、巻尺やさしを使用して器具取付位置を測定する必要がある為である。

この考案は、従来のこの欠点を除去する為、あらかじめ板状部材の表面に器具の取付用の目印を付したもので、この考案の重要な目的は、器具の取付手間が大幅に省略できると共に、器具を決められた位置に正確に取付けることができ、しかも、器具の取付位置の割出しが簡便である建築用板状部材を提供するにある。

以下この考案の一実施例を図面に基いて説明する。

板状部材1は、表面に実線、点線、鎖線あるいは点などの目印を有する。

第1図は、等間隔で平行な実線2が基盤格子状

- に印されたものである。第2図は交叉する短線3が基盤格子の交点に印されたもの、第3図は実線4と、この実線4と平行な点線5とが印されたもの、第4図は等間隔で平行な実線と、この実線と交叉する短線6とが付されたものである。

実線や点線等の目印の間隔は、狭ければ狭い程器具を正確に所定位置に取付けられるが、狭くなればなる程、数が多くなるので、どの目印に合わせて器具を取付けるかが判明し難くなる。この為目印の間隔は、通常0.5~1cm間隔程度に決定されることが望ましい。第3図に示すように、例えば実線と点線とを交互に引くとか、あるいは線や点の太さや色を変えるとかすれば、線や点の間隔が狭くなつて数が多くなつても、どの線、あるいはどの点に合わせて器具を取付けるかが極めて明瞭になる。

板状部材の表面に目印を付す方法は、右こうボ



- ードの如く、表面に紙等を張り合わすものでは、張り合わされる紙にあらかじめ印刷しておけばよいが、表面に紙等を張り合わさないものは、表面に直接印刷すればよい。又、表面に印刷するのはなく、平盤に規則的な突起が配列されたものを表面に押し付け、この突起でもつて表面に凹みの目印を付け、この凹みにより器具の取付位置を表示する場合もある。又、この目印の間隔を例えば 1 cm、5 cm、10 cm 等にしておけば、この目印によつて取付けられる器具の間隔、あるいは器具と床との距離等が一目瞭然となる。これは、例えば室内のスイッチの如く、床からの高さが定められている器具の取付けにすこぶる便利である。



この考案に係る板状部材は、前記の如く、表面にあらかじめ器具取付用の目印が付されている為巻尺やさし等を全く使用することなく、この目印に合わせて、器具を所定位置に正確に取付けるこ

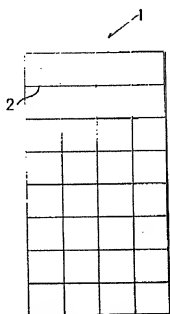
- とができる。即ち、従来の巻尺やさしによる器具の取付位置の測定というめんどうな手間を全く必要とせず、目印に合わせて器具を取付けるだけで器具を所定位置に正確にあるいは規則的に取付けることができる結果、誰でもが簡単かつ迅速に施工できるものである。又、目印が一定間隔の目印である為、例えば、広い天井に等間隔に数個の照明器具を取付ける場合、器具間の距離を一定間隔の目印によつて簡単に割出すことができるので、天井と壁の幅や長さを測定しなくとも、どの位置に器具を取付けるかが一目瞭然である。

#### 4 図面の簡単な説明

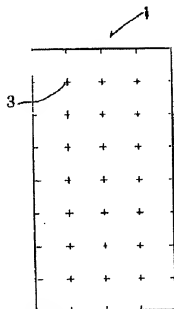
第1図ないし第4図は、この考案の一実施例を示す建築用板状部材の平面図である。

1・・・建築用板状部材、2・・・実線、3・・・短線、4・・・実線、5・・・点線、6・・・短線

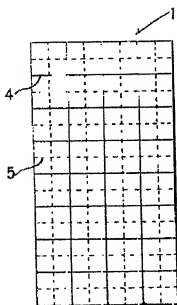
代理人 弁理士 豊栖康弘



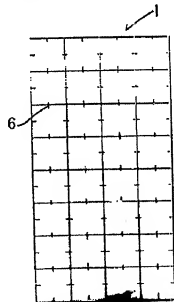
第 1 図



第 2 図



第 3 図



第 4 図